

感染症発生動向調査委員会報告 8月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 手足口病の流行が続いています。

全数把握疾患

8月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
腸管出血性大腸菌感染症	18件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
デング熱	3件	梅毒	3件
レプトスピラ症	1件	風しん	12件
アメーバ赤痢	1件		

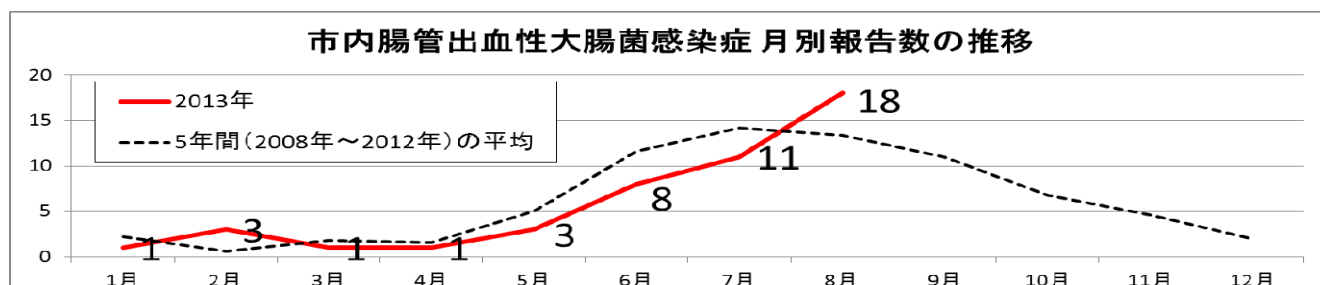
＜細菌性赤痢＞

Shigella sonnei(D群)の報告が1件ありました。渡航先(カンボジア)での感染が推定されています。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

18件(O157 VT1VT2 9件、O157 H7VT1VT2 1件、O157 VT2 5件、O157 VT1 1件、O26 VT1 2件)の報告がありました。このうち、4件では同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。今月は18件報告されており、過去5年間(2008年～2012年)の8月の平均報告数(13.4件)を上回っています。本症は例年これからの季節にも報告されるので注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、中心部まで加熱(75℃で1分間以上)することが重要です。さらに、しっかりした手洗いが重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めに医療機関を受診しましょう。詳しくは、[「O157に注意しましょう」](#)(衛生研究所)をご参照ください。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



＜デング熱＞ 3件の報告がありました。すべて海外(インドネシア、カンボジア、マレーシア)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

＜レプトスピラ症＞ 1件の報告がありました。沖縄西表島での水系感染です。

＜アメーバ赤痢＞腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞古典型CJDの報告が1件ありました。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞ 1件の無症状病原体保有者の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜梅毒＞ 3件の報告があり、1件は無症候期で感染経路感染地域等不明で、もう1件は早期顕症Ⅰ期(初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹)で国内での異性間性的接触、残る1件は早期顕症Ⅱ期(梅毒性バラ疹)で、国内での性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞ 12件(男性11件、女性1件)の報告がありました。うち11件で予防接種歴が無いか確認できませんでした。現在報告数は減少傾向ですが、まだ報告は続いています。先天性風しん症候群予防のため

め、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

- ◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)
- ◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

定点把握疾患

平成25年7月22日から平成25年8月25日まで(平成25年第30週から平成25年第34週まで。ただし、性感染症については平成25年7月分)の横浜市感染症発生動向評価、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

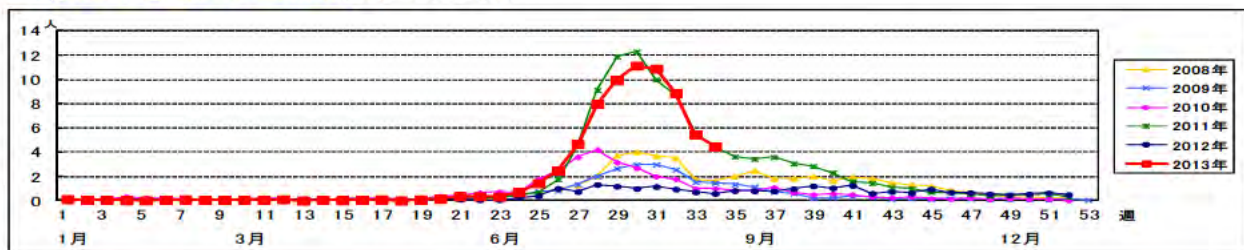
平成25年 週一月日対照表

第30週	7月22日～7月28日
第31週	7月29日～8月4日
第32週	8月5日～8月11日
第33週	8月12日～8月18日
第34週	8月19日～8月25日

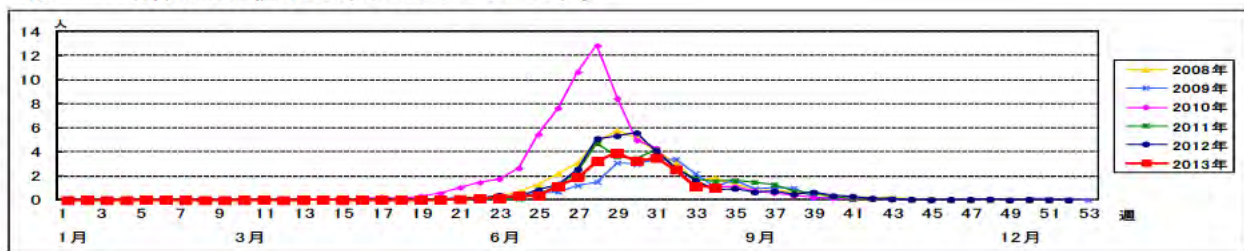


<手足口病> 流行のピークは過ぎましたが、第34週は市全体で定点あたり4.49であり、警報レベル終息基準値(2.00)を依然として上回っています。原因ウイルスでは今回の流行当初から、全国でCA6が多く検出されており、現在も同様な傾向です。市内の病原体定点からもCA6が多く検出されています。CA6を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せずに広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患1~2か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

- ◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



<ヘルパンギーナ> 市全体で第34週1.04と減少傾向ですが、区別では、瀬谷区5.50、港南区2.50で警報レベル解除基準値(2.00)を上回っています。



<性感染症> 7月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が12件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性9件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が1件でした。

<基幹定点週報> 第32週に無菌性髄膜炎の報告が1件(13歳男児。带状疱疹、発熱(40℃)、頭痛、異常行動あり。髄液、皮膚(痂皮)からVZV(PCR+)検出。)ありました。マイコプラズマ肺炎では第30週0.50、第31週0.25、第32週0.00、第33週0.67、第34週1.00と落ち着いています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 7月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点26件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点13件(鼻咽頭ぬぐい液5件、ふん便2件、髄液2件、血清2件、痂皮1件、尿1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎10人、手足口病8人、ヘルパンギーナ6人、咽頭結膜熱1人、発疹1人、眼科定点は流行性角膜炎1人、急性出血性結膜炎1人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、発疹2人、気道炎1人、急性散在性脳脊髄炎疑い1人でした。

9月10日現在、小児科定点の咽頭結膜熱患者1人と気道炎患者1人からアデノウイルス4型、別の気道炎患者2人からそれぞれアデノウイルス1型とコクサッキーウイルス(以下Cox)B2型、ヘルパンギーナ患者1人からCoxB1型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の手足口病患者6人、ヘルパンギーナ患者1人と発疹患者1人からCoxA6型、ヘルパンギーナ患者3人からCoxA2型(2人)とCoxA8型(1人)、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、気道炎患者1人からエコーウイルス25型、基幹定点の無菌性髄膜炎患者1人から水痘・帯状疱疹ウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から12件、定点以外の医療機関等からは17件あり、赤痢菌(カンボジアに渡航)、腸管出血性大腸菌、サルモネラが検出されました。

その他の感染症は、小児科から0件、基幹病院から3件、その他が2件でした。バンコマイシン耐性腸球菌はvanA型の*Enterococcus faecium*でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(8月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月		8月			2013年1月～8月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	12	17	3	73	51
赤痢菌					1	2	2	
腸管病原性大腸菌						2		
腸管出血性大腸菌					16	1	38	
腸管毒素原性大腸菌						2		
チフス菌						4		
パラチフスA菌							2	
サルモネラ				2		1	20	
不検出			0	10	0	2	42	9

その他の感染症

菌種名	検査年月		8月			2013年1月～8月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	3	2	48	21	133
A群溶血性レンサ球菌	T1					1	1	
	T2					5		
	T4					9		
	T6					6		
	T12					4		
	T25					2		
	T28					3		
	T B3264					2		
B群溶血性レンサ球菌						1		
G群溶血性レンサ球菌								2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌				1			10	
バンコマイシン耐性腸球菌				1			2	21
<i>Legionella pneumophila</i>								2
インフルエンザ菌					1	1		3
肺炎球菌					1	5	3	19
<i>Neisseria meningitidis</i>								2
黄色ブドウ球菌						2	4	1
結核菌								10
緑膿菌								63
その他				1			1	2
不検出			0	0	0	7	0	8

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】